

トルコ 低温のためサクランボの収穫に遅れ

FreshPlaza 2023年5月10日

トルコの青果実輸出業者アララ・タリム社の副社長であるベリット・バルジ氏は、「トルコのサクランボの生育期間の天候は良好であった。低温時間は十分あり、晩生地帯の満開期に夜の降霜が数回あったほかは、開花期の気温は温暖であった。この降霜は潜在的な生産量に大きな影響を与えなかった。早生地帯の果実は傷などが無く品質が良いようだ。晩生地帯の状況については1週間から10日で明らかになる。現在の5月の気温は過去の月平均よりも低く、早生地帯では収穫の開始が5月25日ないしは29日まで遅れる。サクランボの出荷シーズンは8〜9週間で終了すると予想される」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

バルジ氏は、サクランボの輸出シーズンの準備はほぼ完了しているが、世界経済の現状では課題はすでに明らかだと説明する。「需要は良好で、EUや英国、その他海外の小売業者との販売計画はほぼ出来上がっている。世界経済のインフレ環境のため、生産コストが過去のデータと比べて高くなっているが、ターゲット市場の消費者は、この金のかかる環境下で節約するためにより安価な商品を求めており、それがジレンマを生み出している。弊社はこの状況を綿密に観察し、市場と生産者のバランスをとるように努めるが、それは簡単なことではない。」

需要が強いため、価格が高くなる可能性はある。同氏は、しかし、輸出が実際に始まると市場がどのようになるかは分からないと言う。「EUと英国が弊社の主要市場になる。その他海外からの需要もあり、それらの市場の小売業者との商談を開始する。価格は需要と供給のバランスの結果である。したがって、我が国と競合国の季節的な動向の全体像が把握できれば、予想される市場価格が分かる。」

競争は熾烈だが、同氏は取組みを進めるだけの十分な果実を確保できると考えている。「出荷期間が我々と同じ5月末から7月末までの国が競争相手だ。品質とサービスで他との差別化を図り、持続可能な方法で市場の期待に応えることが肝心であり、自社の220ヘクタールでトルコの在来品種とは異なる世界的に受け入れられている品種を生産していることが助けとなる。ユニテック社製の最新型の洗練されたサクランボ選果ラインが弊社の高い出荷能力をサポートしており、世界の果実売り場に最高品質のサクランボを提供することができる。市場と生産者のバランスをとることが持続可能性の鍵である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

米国 生鮮リンゴの輸出と在庫は引き続き低水準

FreshFruitProtal 2023年5月11日

2022年の収穫量の減少により、米国産生鮮リンゴの出荷量は減少した。したがって、統計上の出回り量が依然として低い水準にあることは驚くに値しない。米国リンゴ協会が5月10日に発表した最新の報告書によると、2023年5月1日現在の米国の生鮮リンゴの貯蔵量は合計4,020万ブッシェルで、昨年5月に報告された在庫量(4,120万ブッシェル)より2.3%少なく、5月の5年平均(4,170万ブッシェル)より3.5%少ない。

それに伴って、米国のリンゴの輸出量は、在庫以上に減少している。米国リンゴ協会の図表によると、2023年3月の生鮮リンゴの輸出量は300万ブッシェル未満であった。2022年3月の数値は約400万ブッシェルで、3月の輸出量の5年平均は約500万ブッシェルである。

2023年3月の生鮮リンゴの輸入は、国内の貯蔵品の供給量が多いためほとんどなく、これは従来と同様である。通常、米国市場には4月から輸入リンゴが入り始め、7月にはピークの約200万ブッシェルに達する。夏の終わりに国内の収穫が始まると、輸入量は急速に減少する。

州別の5月の生鮮リンゴの貯蔵量は、ワシントン州が約3,500万ブッシェルで、うち2,750万ブッシェルがCA貯蔵庫にある。ミシガン州が大きく離れた第2位で、230万ブッシェル全量がCA貯蔵庫にある。次いでニューヨーク州が第3位で、CA貯蔵庫に160万ブッシェル、通常の冷蔵倉庫に30万6千ブッシェルある。(過去の貯蔵量等を一部省略しました。米国リンゴ協会の報告書では1ブッシェル=42ポンド(約19kg))